

4 本市の現状

(1) 地勢・交通

本市は、山形県の北西部、庄内地方の北部に位置し、北は秀峰鳥海山を望み、東は出羽丘陵を背にし、南はほぼ庄内平野の中央に達し、西は日本海に面しています。また、鳥海山から発する日向川、県を縦貫する母なる川最上川が、砂丘帯を貫き日本海に注いでいます。酒田沖の県唯一の有人離島・飛島は、鳥海山とあわせ鳥海国定公園に指定されています。

交通では、空路は庄内空港が、鉄道はJR羽越本線が通っています。また、高速道路は、日本海沿岸東北自動車道が、地域高規格道路では、新庄酒田道路が走っています。

酒田港は、県唯一の重要港湾、国際貿易港となっています。

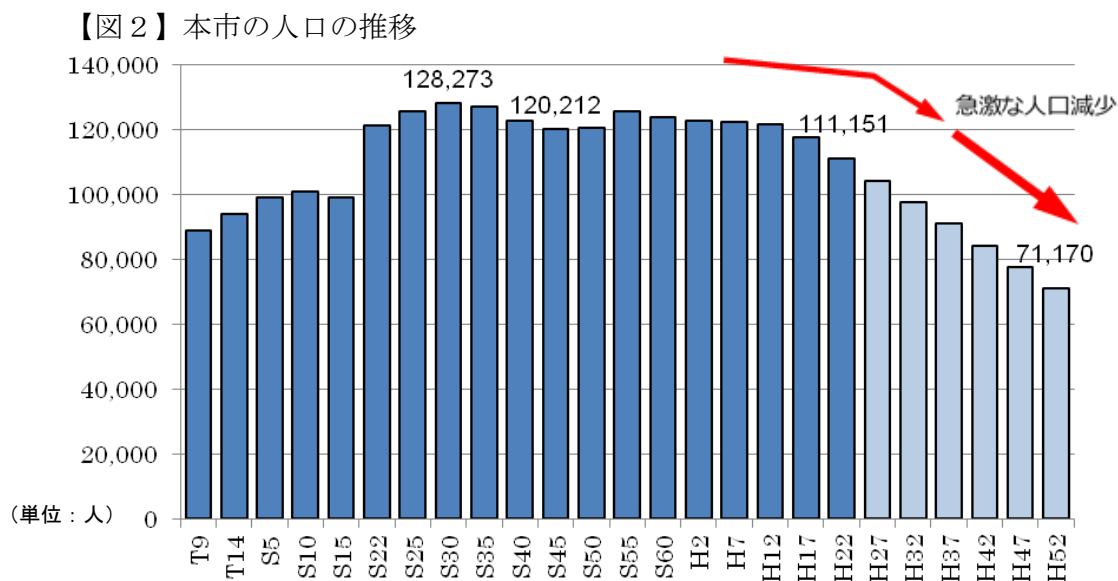
(2) 人口

本市の人口は、昭和30年（1955年）の128,273人をピークに減少し、昭和50年代に一旦回復したものの、その後は減少の一途をたどっています。

その中においても、酒田駅周辺地区を含む中心市街地内の居住人口は、全市の減少率よりも高い減少幅となっています。

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の推計によると、平成52年（2040年）には全市で71,170人となり、平成22年（2010年）に比べると36%の減少となっています。

本市が平成27年度に策定した人口ビジョンでは、平成52年（2040年）に86,000人程度、平成72年（2060年）に75,000人程度の人口が確保されるとしています。



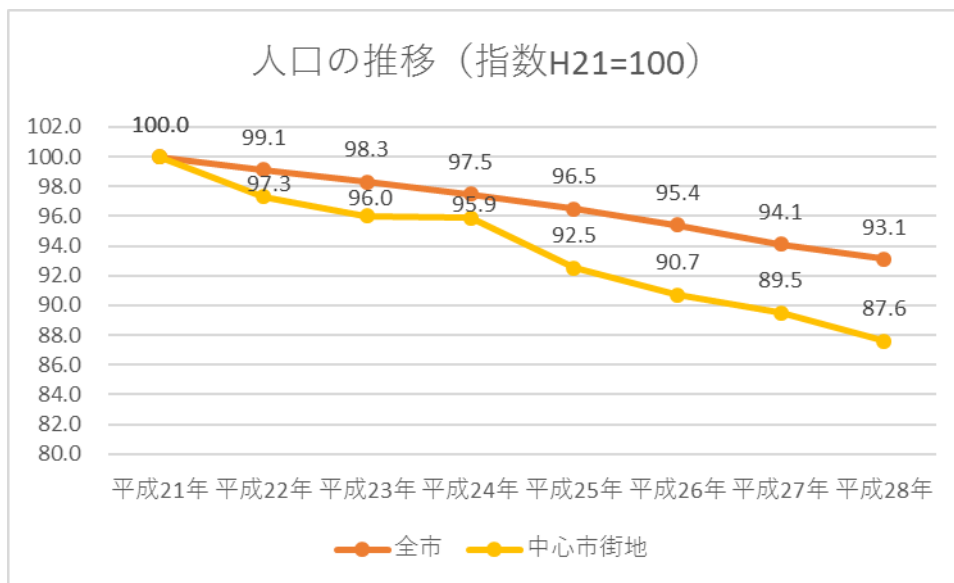
資料：「国勢調査」（総務省）、「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月、社人研）

【表 1】 全市と中心市街地の人口の推移

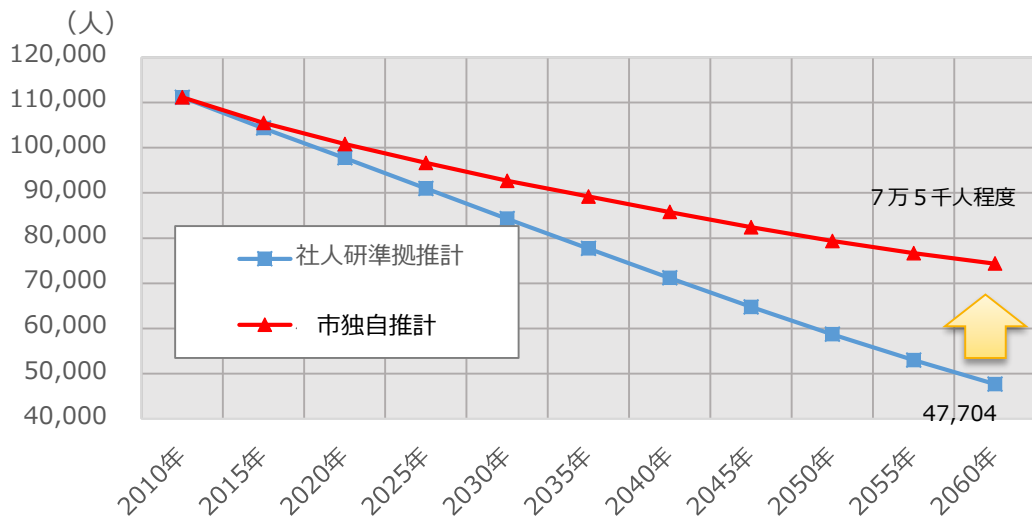
年次	全市		中心市街地		b/a (%)
	人口 (a)	指数	人口 (b)	指数	
平成 21 年	113,591	100.0	2,923	100.0	2.57
平成 22 年	112,587	99.1	2,844	97.3	2.53
平成 23 年	111,672	98.3	2,805	96.0	2.51
平成 24 年	110,771	97.5	2,803	95.9	2.53
平成 25 年	109,595	96.5	2,705	92.5	2.47
平成 26 年	108,335	95.4	2,651	90.7	2.45
平成 27 年	106,939	94.1	2,615	89.5	2.45
平成 28 年	105,708	93.1	2,562	87.6	2.42

資料：各年 9/30 現在の住民基本台帳

(注) 中心市街地の範囲は、中心市街地活性化基本計画に定める範囲と同じ。



【図 3】 酒田市人口ビジョン (2015~2060)



(3) 歴史・文化

湊町・酒田の歴史は、徳尼公と秀衡の遺臣 36 騎により始まると言われています。

江戸時代には、河村瑞賢による西廻航路が開かれ、米の集積地・積出港となった酒田は大いに栄えます。北前船が往来する酒田には、全国から人や物が集まり、華やかな湊町文化が形成されました。

そうした繁栄の中から、「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」とまで謳われた豪商・本間家が生まれます。本間家三代当主・光丘は、防砂林の植林、庄内藩の財政再建、飢饉への備えなどに多大の功績を残しました。世のため人のためを思う「公益の心」は、今でも大切に受け継がれています。

近代に入ってから、港湾都市、米どころとして知られ、戦後は昭和 51 年の「酒田大火」も乗り越えてきました。平成 17 年には、酒田市、八幡町、松山町、平田町の市町が合併し、現在の新酒田市が誕生しています。

本間家の栄華は、本間家旧本邸、本間美術館、光丘文庫などに偲ぶことができます。江戸時代から続く酒田まつり、料亭の文化にも、湊を通して栄えた酒田の歴史と文化が色濃く残ります。

(4) 産業・観光

平成 22 年国勢調査に基づく産業別就業人口割合は、第 1 次産業 8.3%、第 2 次産業 25.3%、第 3 次産業 63.2%となっております。

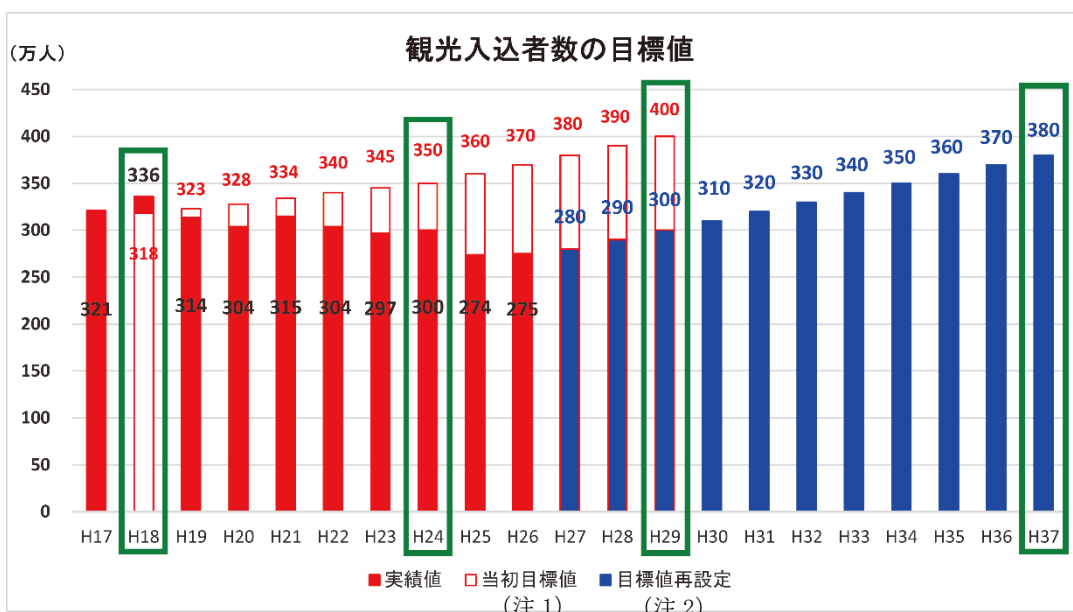
農産物、海産物が豊富で、庄内米、刈屋梨、メロン、いちご、平田赤ねぎ、寒鱈、紅えび、トビウオ、岩牡蠣、イカなど、特産品には枚挙にいとまがありません。全国的に高い評価を受けている日本酒や、酒田のラーメンも、酒田名物として全国に知られるようになりました。さかた海鮮市場、みなと市場等の市内各所で、これらの食を堪能することができます。

観光資源としては、本間家ゆかりの本間家旧本邸、本間美術館、光丘文庫（平成 28 年 10 月現在閉館中）のほか、湊の栄華が偲ばれる山居倉庫、独特の雅な文化が残る相馬樓や山王くらぶ、郷土の偉人を顕彰する土門拳記念館などがあります。

観光入込者は、平成 26 年時点では、平成 17 年に比べ、庄内地域全体は増加しているものの、本市は約 14%減少している状況です。中長期観光戦略に基づき各種施策を展開し、平成 37 年度には 380 万人を目指していきます。

平成 28 年 9 月には「鳥海山・飛島ジオパーク」の日本ジオパークネットワークへの加盟が認められ、ジオ・ツーリズムなどとともに「酒田の成り立ち」への注目が今後、高まることが期待されます。また、国内外のクルーズ客船誘致にも力を入れています。

【図4】観光入込数の目標値



(注1) 酒田市観光基本計画（平成20年3月策定）による目標値
 (注2) 酒田市中長期観光戦略（平成28年3月策定）による目標値

(5) 教育

本市には、市立小学校が25校（飛鳥小学校が平成28年10月5日で休校）、市立中学校が8校、高等学校（県立及び私立）が6校（通信制を含む）、特別支援学校が1校、大学・専修学校が3校あります。そのうち、小学校の5校が改編の対象となっており、平成29年度には22校となる予定です。

平成27年5月1日現在では、児童・生徒数は、小学生が5,125人、中学生が2,925人、高校生が3,102人となっております。

社会教育施設・文化施設として、総合文化センター、出羽遊心館、公益研修センター、市立資料館、旧鑑屋、市美術館、酒田海洋センター、松山文化伝承館、松山城址館、ひらた生涯学習センター等です。

子育て支援関連施設としては、平成28年度では、認可保育所が31カ所、認定こども園が3カ所、幼稚園が6園あります。

(6) 広域圏形成

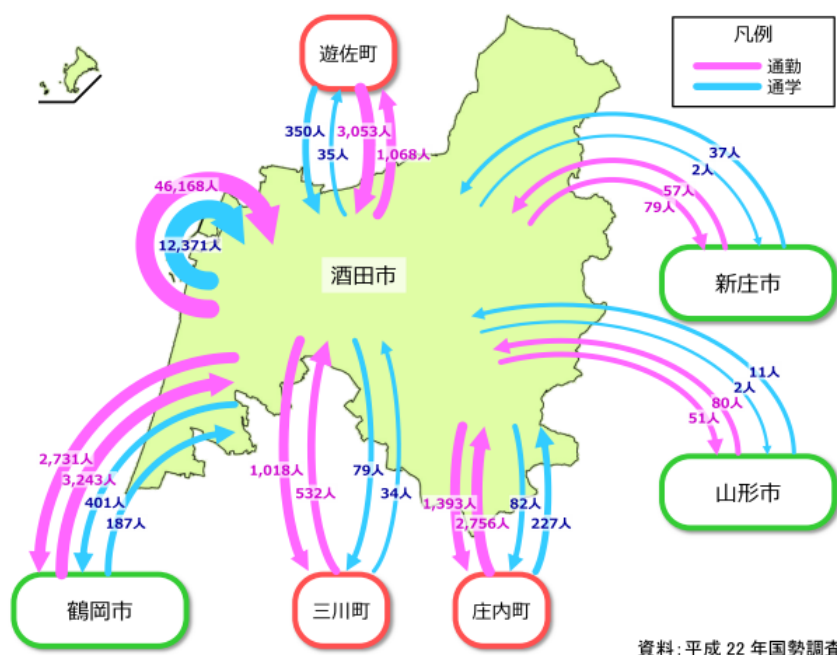
本市は、平成27年3月に三川町、庄内町、遊佐町とともに、「庄内北部定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。

本市は、「庄内北部定住自立圏」の中心市として、「定住に必要な都市機能の整備・提供や生活機能の確保・充実に努めるとともに、地域資源を活かした振興策に取り組み、圏域全体の活性化と圏域住民が安心して暮らせる魅力ある圏域の形成を図る」ことを役割としています。

観光圏としても、高速道路のミッシングリンクの早期解消や、羽越本線、陸羽西線の高速化、新幹線延伸等の可能性を踏まえながら、交流人口の拡大が想定されます。「鳥海山・飛島ジオパーク」における連携の推進も期待されています。

こうした生活圏や観光圏の拡大は、中心市街地の活性化にも大きく寄与することが期待されます。

【図5】通勤・通学流動



【表2】商圈

項目	商品総合	外食	レジャー・娯楽
第1次商圈 (吸引力30%以上)	酒田市 遊佐町	酒田市 遊佐町 庄内町	酒田市 遊佐町
第2次商圈 (吸引力15%以上 30%未満)	庄内町		庄内町
第3次商圈 (吸引力5%以上 15%未満)		三川町 鶴岡市	三川町 鮭川村

資料：平成24年度山形県買物動向調査